



慶應義塾体育会創立125年記念 特別展

近代日本と 慶應スポーツ

— 体育の目的を忘るゝ勿れ —

Keio Sports and Modern Japan

“Never Forget the Higher Purpose of College Sports”

Commemorating the 125th Anniversary of the Keio University Athletic Association
East Research Building, Keio University, Mita Campus

2017

11.28 (火) → 12.13 (水)

慶應義塾大学三田キャンパス
東館8階ホール特設会場 [入場無料]

開館時間: 午前10時～午後6時 (土日も開館、最終日は午後5時閉館)

主催: 慶應義塾体育会、慶應義塾福澤研究センター 協力: 慶應義塾大学アート・センター

近代日本と慶應スポーツ

— 体育の目的を忘るゝ勿れ —

Keio Sports and Modern Japan

“Never Forget the Higher Purpose of College Sports”

ベルリン五輪大江季雄・西田修平両選手の
「友情のメダル」1936年
早稲田大学大学史資料センター蔵



慶應義塾体育会は本年創立125年を迎えました。この機会に体育ないスポーツが、近代より現代へと向かう日本の歩みの中でいかなる役割を果たしたのか、またその中で教育機関としての慶應義塾が果たした役割はいかなるものであったかを回顧したいと思います。その試みを通して、今後の体育・スポーツの可能性について考える機会としたいと考えます。

慶應義塾と体育会の歩みを回顧するとき、その原点となるのは、創立者福澤諭吉の身体観・体育観であり、それはとりもなおさず近代日本のスポーツの発祥の源流と言い換えても過言ではありません。そういった視点は慶應義塾内外で忘却されてしまっています。またそもそも歴史的に日本の体育・スポーツを回顧しようとする視点は希薄であるのが実情です。

本展は単なる一大学の回顧趣味としてではなく、広くスポーツの果たす役割と可能性を社会と確認する機会としたいと考えています。また同時に、とすると忘れられがちなスポーツ史に関わる歴史的な資料の保存と展示の重要性への理解を深める機会になればとも考えています。

関連行事 (いずれも事前申し込み不要)

座談会「メルボルン五輪慶應クルー秘話」

登壇者 印藤博司氏(五輪出場時端艇部マネージャー)
小幡一雄氏(五輪代表決定戦出場艇グルノーブル号設計者)
メルボルン五輪ボート競技出場選手の方々
佐々木亨氏(五輪出場時端艇部サブコーチ・座談会進行)
12月5日(火) 午後3時~4時(開場午後2時30分)
会場:三田キャンパス三田演説館

トークイベント「鑑賞の手引き—小学生から大人まで—」

「福澤諭吉とスポーツ」 山内慶太氏(本塾大学看護医療学部教授)
「小泉信三とスポーツ」 神吉創二氏(本塾幼稚園教諭)
12月2日(土)、9日(土) 会場:三田キャンパス第1校舎111教室
12月3日(日)、10日(日) 会場:三田キャンパス南校舎411教室
各日午後2時(毎回2名が30分ずつ計60分程度)

ギャラリートーク(展示企画者による資料解説)

11月30日(木)、12月6日(水)、8日(金)、9日(土)、10日(日)
各日午後3時(60分程度) 会場:展示会場内

アクセス:

田町駅(JR山手線/JR京浜東北線)徒歩8分
三田駅(都営地下鉄浅草線/都営地下鉄三田線)徒歩7分
赤羽橋駅(都営地下鉄大江戸線)徒歩8分

お問い合わせ:

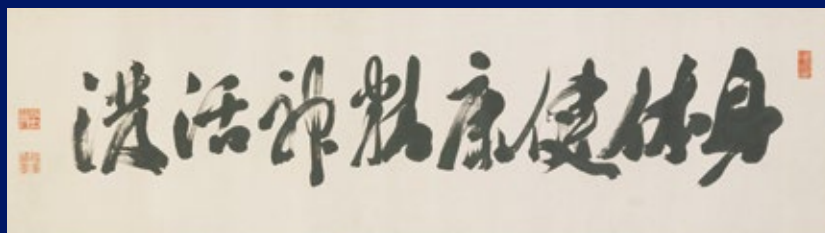
慶應義塾体育会

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
電話:03-5427-1623(平日午前8時30分~午後5時) FAX.03-5427-1622
e-mail: t125@info.keio.ac.jp URL: http://www.uaa.keio.ac.jp/

*体育会に関する資料を収集していますので、些細な情報でもぜひお知らせください



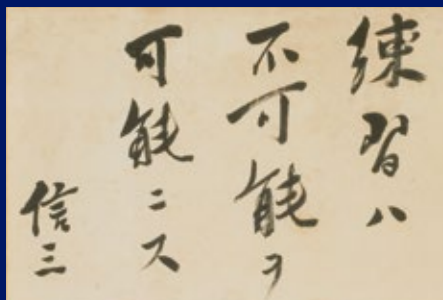
水原茂着用野球部ユニフォーム 野球殿堂博物館蔵



福澤諭吉筆「身健体強精神活潑」慶應義塾図書館蔵

主な展示資料:

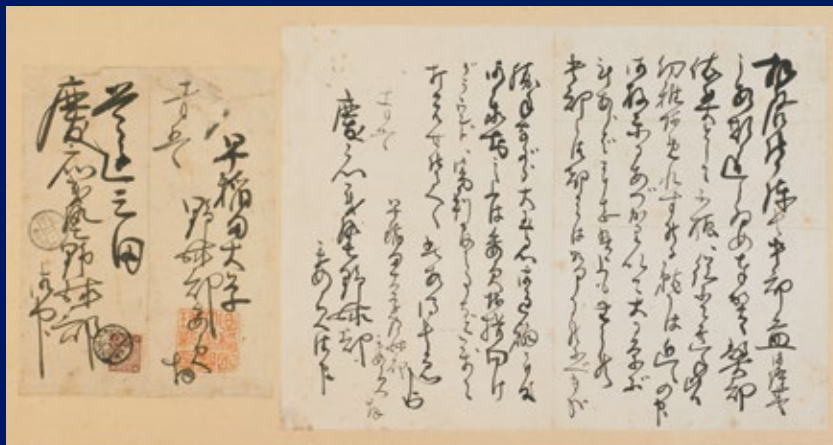
福澤諭吉使用居合刀(慶應義塾福澤研究センター蔵)、「福翁自伝」福澤諭吉加筆原稿(1898年頃・慶應義塾福澤研究センター蔵)、最古の蹴球部タイガージャージ(1904年頃・黒黄会蔵)、日本初の五輪メダリスト・熊谷一弥愛用テニスラケット(鎌倉ローンテニスクラブ蔵)、ロス五輪メダリスト河石達吾の硫黄島からの手紙(1944年・河石達雄氏蔵)、GHQに提出された弓術復活の歎願書(1947年・三田弓友会蔵)、全日本男子バレー監督を務めた松平康隆のソ連留学中のバレーボール研究ノート(1961年・松平俊江氏蔵)、堀内敬三自筆「若き血」楽譜(慶應義塾福澤研究センター蔵)、リオ五輪陸上男子400mリレー決勝で日本チーム使用のバトン(2016年・日本陸上競技連盟蔵)ほか およそ150点



小泉信三筆「練習ハ可能ニス」
慶應義塾福澤研究センター蔵



マナスル登山隊(团长横有恒)が山頂に残し30年後発見されたビスケット 1953年 日本山岳会蔵



早慶戦開始のきっかけとなった早稲田大学野球部からの挑戦状 1903年 慶應義塾福澤研究センター蔵